

# JIS

## 石灰の試験方法

JIS R 9011 : 2006

(JLA/JSA)

平成 18 年 6 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 窯業技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長代理 副委員長)	植 松 敬 三	長岡技術科学大学
(委員)	安 藤 秀 征	黒崎播磨株式会社
	荻 原 行 正	鹿島建設株式会社
	小 澤 宏 一	JFE スチール株式会社
	影 山 雅 英	日東紡績株式会社
	片 山 康 三	セントラル硝子株式会社
	阪 井 博 明	日本ガイシ株式会社
	福 泉 秀 明	東邦テナックス株式会社
	町 田 隆 志	株式会社日立製作所
	山 内 幸 彦	独立行政法人産業技術総合研究所

---

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 39.6.1 改正：平成 18.6.20

官 報 公 示：平成 18.6.20

原 案 作 成 者：日本石灰協会

(〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-21 新虎ノ門実業会館 TEL 03-3504-1601)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：窯業技術専門委員会 (委員長代理 植松 敬三)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

日本工業規格

JIS  
R 9011 : 2006

## 石灰の試験方法

### 正 誤 票

区分	位 置	誤	正
本体	18.3.3 b)	塩化ナトリウム 26 g を水に溶かし, 1 L とする。	塩化ナトリウム 260 g を水 740 g に溶かす。

平成 19 年 11 月 1 日作成

白 紙

## まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、日本石灰協会(JLA)／財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって、**JIS R 9011:1993** は改正され、この規格に置き換えられる。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任をもたない。

## 目 次

	ページ
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	1
3. 定義	1
4. 一般事項	1
5. 試験項目	2
6. 試料	2
7. 試験値のまとめ方	2
8. 蛍光 X 線分析法	2
8.1 分析項目	2
8.2 定量範囲	2
8.3 試薬	3
8.4 装置及び器具	3
8.5 測定条件	3
8.6 試料の作成	3
8.7 検量線の作成	4
8.8 検定用試料	4
8.9 定量	4
8.10 報告	5
9. 強熱減量の定量方法	5
9.1 要旨	5
9.2 使用器具及び装置	5
9.3 操作	5
9.4 計算	5
10. 二酸化けい素＋不溶残分の定量方法	5
10.1 要旨	5
10.2 操作	5
10.3 計算	5
11. 二酸化けい素の定量方法	6
11.1 要旨	6
11.2 操作	6
11.3 計算	6
12. 酸化アルミニウムの定量方法	6
12.1 EDTA 滴定法	6
12.2 質量法	7
12.3 原子吸光分析法	8

	ページ
12.4 発光分光分析法 .....	9
13. 酸化第二鉄の定量方法 .....	9
13.1 吸光光度法 .....	9
13.2 EDTA 滴定法 .....	10
13.3 原子吸光分析法 .....	11
13.4 発光分光分析法 .....	12
14. 酸化カルシウムの定量方法 .....	12
14.1 EDTA 滴定法 .....	12
14.2 過マンガン酸カリウム滴定法 .....	14
15. 酸化マグネシウムの定量方法 .....	15
15.1 EDTA 滴定法 .....	15
15.2 原子吸光分析法 .....	16
15.3 発光分光分析法 .....	17
16. 三酸化硫黄の定量方法 .....	17
16.1 質量法 .....	17
17. 全硫黄の定量方法 .....	18
17.1 質量法 .....	18
17.2 赤外線吸収法 .....	19
18. 二酸化炭素の定量方法 .....	19
18.1 炭酸バリウム逆滴定法 .....	19
18.2 赤外線吸収法 .....	22
18.3 容量法 .....	23
19. 五酸化りんの定量方法 .....	25
19.1 吸光光度法 .....	25
19.2 発光分光分析法 .....	26
20. 付着水分の定量方法 .....	26
20.1 乾燥ひょう（秤）量法 .....	26
20.2 赤外線水分計法 .....	27
21. 粉末度試験方法 .....	27
21.1 ふるい .....	27
21.2 乾式操作 .....	27
21.3 湿式操作 .....	27
21.4 計算 .....	27
解 説 .....	29

白 紙



## 石灰の試験方法

## Test methods of lime

1. 適用範囲 この規格は、生石灰、消石灰、軽焼ドロマイト及び水酸化ドロマイトの試験方法について規定する。

なお、水酸化ドロマイトについては、蛍光 X 線分析法・原子吸光分析法・発光分光分析法・赤外線吸収法の適用を、並びに、生石灰及び軽焼ドロマイトについては付着水分・粉末度の適用をそれぞれ除外する。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

- JIS H 6201 化学分析用白金るつぼ
- JIS K 0016 鉄標準液
- JIS K 0033 標準物質－標準液－りん酸イオン
- JIS K 0037 標準物質－標準液－マグネシウム
- JIS K 0050 化学分析方法通則
- JIS K 0115 吸光光度分析通則
- JIS K 0116 発光分光分析通則
- JIS K 0119 蛍光 X 線分析方法通則
- JIS K 0121 原子吸光分析通則
- JIS K 8001 試薬試験方法通則
- JIS K 8005 容量分析用標準物質
- JIS K 8069 アルミニウム（試薬）
- JIS K 8432 酸化マグネシウム（試薬）
- JIS P 3801 ろ紙（化学分析用）
- JIS R 9001 工業用石灰
- JIS R 9200 せっこう及び石灰に関する用語
- JIS Z 8401 数値の丸め方
- JIS Z 8801-1 試験用ふるい－第 1 部：金属製網ふるい

3. 定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS K 0115、JIS K 0116、JIS K 0119、JIS K 0121、JIS K 8005、JIS R 9001、JIS R 9200、JIS Z 8401 及び JIS Z 8801-1 による。

4. 一般事項 分析方法に関する一般事項については、JIS K 0050、JIS K 0115、JIS K 0116、JIS K 0119 及び JIS K 0121 による。